

講義・演習概要

(シラバス)

第1部課程 第140期

【令和5年5月10日～令和5年9月15日】

1. 基本法制・経済

1-1 憲法	
担当講師	渋谷 秀樹（立教大学名誉教授）
プロフィール	昭和 53 年 3 月 東京大学法学部卒業 昭和 59 年 3 月 東京大学大学院法学政治学研究科博士課程満期退学 平成 8 年 1 月 大阪府立大学経済学部教授 平成 9 年 4 月 明治学院大学法学部教授 平成 12 年 4 月 立教大学法学部教授 平成 16 年 4 月 立教大学大学院法務研究科教授 平成 18 年 11 月 立教大学大学院法務研究科委員長（平成 24 年 3 月まで） 平成 25 年 3 月 博士（法学）（大阪大学論文博士） 令和元年 11 月 弁護士登録 令和 2 年 3 月 立教大学定年退職
講義の内容	<p>憲法は中央政府（国）のみならず地方政府（地方公共団体）の基本法である。本講義では、憲法の基本原理、人権保障および統治活動に関する内容を幅広く理解し、地方の現場において活用できる素養を培うことをねらいとする。</p> <p>憲法の理論体系は、憲法の内容・概念・基本原理などに関する「憲法総論」、人権の概念・保障の範囲・通則などに関する「人権総論」、身体の所在・経済生活・精神生活・共同生活にそれぞれかかわる諸権利に関する「人権各論」、権力分立原理・統治機構通則に関する「統治機構総論」、そして中央政府と地方政府の組織・活動などに関する「統治機構各論」によって構成されている。</p> <p>講義はレジュメの項目にしたがい、教科書の該当ページ・関連判例などを参照しながら進めていく。講義内容の項目は以下の通りである。</p> <p>第 1～3 時限 憲法総論 第 4～6 時限 人権総論 第 7～13 時限 人権各論 第 14～16 時限 統治機構総論・各論</p>
事前課題・持ち物など	<p>事前に『E-learning「憲法」』を視聴することによってより理解が深まると思う。渋谷『憲法への招待』は憲法入門書として執筆したもので、高等学校国語科用教科書『新精選現代文 B』（明治書院，2018 年）にもその一部が収録されている。</p>
教科書	渋谷 秀樹『憲法』（第 3 版，2017 年，有斐閣） 渋谷秀樹編著『憲法判例集』（第 12 版，2022 年，有斐閣） 渋谷 秀樹『憲法への招待』（新版，2014 年，岩波新書）
参考図書	参考文献：渋谷秀樹『憲法を読み解く』（2021 年，有斐閣）。コンパクトな日本国憲法の逐条解説書として一昨年公刊したもの。
効果測定	別途設定された時限に実施される筆記試験による

1-2 民法	
担当講師	遠藤 研一郎（中央大学法学部教授）
プロフィール	中央大学大学院法学研究科博士前期課程修了 2000年より岩手大学人文社会科学部講師、2002年より同大学助教授 2004年より獨協大学法学部助教授、2007年より中央大学法学部准教授 2009年より現職 國學院大學、昭和女子大学、獨協大学などで非常勤講師。2021年度より、国家公務員総合職試験出題委員
講義の内容	民法は、市民社会のための最も基本的な法律の一つであり、地方自治体の実務とも密接な関係にある。本講義では、20時限を通じて、民法の全体構造を解説し、まずは民法という法律を知ってもらうとともに、特に地方公務員が実務上、特に知っておくべき条文や制度を中心にその内容を明らかにし、さまざまな社会問題との関連を意識してもらうことをねらいとする。 【1時限】民法とは 【2時限】権利義務の主体（自然人、法人）と客体（物） 【3～4時限】所有権 【5～6時限】グループワーク 【6時限】物権変動 【7～8時限】契約の成立、契約の無効・取消し 【9～10時限】典型契約 【11～12時限】グループワーク 【13～15時限】不法行為責任、債務不履行、担保 【16～17時限】グループワーク 【18～20時限】調査報告およびまとめ
事前課題・持ち物など	テキストをしっかりと熟読してから受講すること。
教科書	遠藤研一郎『民法〔財産法〕を学ぶための道案内（第2版）』（法学書院） テキストの補助レジュメ
参考図書	
効果測定	筆記試験による。なお、グループワークによる調査報告も加味する。

1-3 行政法	
担当講師	高橋 滋（法政大学法学部 教授）
プロフィール	東京大学法学部卒業、一橋大学大学院博士後期課程満期退学。一橋大学を経て現職
講義の内容	<p>I 行政手続法の制定・改正、地方分権改革、情報公開法制・個人情報保護法制の整備、行政事件訴訟法の改正、行政不服審査法の全面改正等、行政法の基幹的な法制度の整備・改正を経た時点にあつて、行政法の基礎的な知識は、地方行政の現場において不可欠なものとなっている。</p> <p>II 本講義においては、実務との関連を意識しつつ、地方行政におけるガバナンスの確保、行政上の紛争の回避・解決に不可欠な行政法学の知識を受講者に体得させることを目標とする（地方自治制度、情報公開・個人情報保護等、他の講義科目において取り上げる部分には触れないが、適宜、当該分野に関する理解度を確認することがある）。</p>
事前課題・持ち物など	<p>第1回から第4回の教科書の予習範囲を指定する。併せて、第1回・第2回の予習判例を一読すること。</p> <p>第1回・第2回 第1編、1頁～40頁 第3回・第4回 第2編第1章・第2章 42頁～58頁</p>
教科書	高橋滋『行政法〔第2版〕』（弘文堂、2018年）
参考図書	高橋滋『法曹実務のための行政法入門』（判例時報社、2021年）
効果測定	別途設定された時限に実施される筆記試験による

1-4 地方自治制度	
担当講師	井上 靖朗（自治大学校部長教授）
プロフィール	平成10年、自治省（当時）入省。総務省（自治財政局交付税課、公営企業課等）のほか、山形県、奈良県、さいたま市、鳥取県、国土交通省、地方公共団体金融機構に勤務。令和3年7月より自治大学校研究部長、同4年7月より現職。
講義の内容	<p>地方自治制度は、地方自治体の行財政運営の枠組みとなる基礎的な制度であり、かつ国の統治の礎の役割も果たしている。</p> <p>本講義では、このような地方自治制度について、地方自治法の規定、関連判例等の概説に加えて、制度の歴史的経緯や現在の運用の実態等についても解説を行うことを通じて、研修終了後の受講生の実践に活用できる知識を身につけることをねらいとする。</p> <p>地方自治法を中心として、関連する各種制度について概観する</p> <p>最近の地方自治法の改正等、地方自治をめぐる新たな動きを重点的に取り上げることとし、基本的事項については事前のeラーニングで学習している前提で、メリハリを付けて省略することもある。</p>
事前課題・持ち物など	事前のeラーニング学習について、事前確認テストで全問正解の章は視聴を省略できることとされているが、時間に余裕があれば視聴することが望ましい。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の際にレジュメを配布する。 ・併せて、下記のテキストを用いる。 ①猪野積『第5版地方自治法講義』（第一法規） ②地方自治小六法（学陽書房） ③地方自治判例百選 第4版（有斐閣） ④地方自治制度講義ノート（自治大学校教授室）
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・渋谷先生の「憲法」、高橋先生の「行政法」の講義との関連が深いので、これらの講義を受講する際には地方自治制度との関係を念頭におくと立体的な理解につながる。 ・地方自治制度の知識を前提として、北村先生の「政策法務」、辻先生の「自治体行政学」の講義を受講すると、これらの講義の理解が深まるものと思われる。
効果測定	筆記試験による（正誤問題と記述問題）

1-5 地方公務員制度	
担当講師	丸山 淑夫（自治大学校客員教授）
プロフィール	昭和57年自治省に入省。 総務省で市町村課長、公務員課長、大臣官房参事官、公務員部長などを務める。そのほか内閣府、内閣官房、復興庁や静岡県、山形県、宮崎市などに勤務する。現在、全国市町村職員共済組合連合会常務理事。
講義の内容	<p>地方公務員制度を体系的に学習する機会はそれほど多くないと思われるが、身近な問題であり、知っておくべきことも多い。本講義では、地方公務員制度の基本的な事項について幅広く理解し習得することを第一のねらいとする。</p> <p>さらに、具体的問題が生じた場合に、地方公務員法等の規定をもとにしてどう対応すべきか、自ら考える力を身に付けることを目指したい。</p> <p>講義では地方公務員制度の基本的な事項を体系的に概説する（8コマ）。その際、地方公務員法の規定のもつ意義について制度の趣旨から理解できるよう努める。必要に応じて実務、判例や国家公務員法等にも言及する。時間の制約があるので各自が教材を学習することを前提として、基本的な事項や重要な事項を重点的に説明したい。</p> <p>また、演習では、受講者を9班（1班4～5人）に分け、所属自治体等の事例を踏まえて検討・発表して頂く。テーマは講師が提案した中から選択。検討結果は①問題提起、②現在の取扱いとその課題、③今後の対応策の検討、④自治体への提言の4項目に整理して発表する。班別の検討に3コマ、発表に3コマ。</p> <p>発表ではパワポでプレゼンのあと質疑応答。班のメンバーでよく議論し、作業を効果的に分担して、限られた時間内に濃度の高い検討を行うことが求められる。</p>
事前課題・持ち物など	講義は下記※の教材をベースに進行する。時間の制約上重点的な説明になるので、地方公務員法を体系的に学習した経験のない方には、次の※の教材を講義の前に <u>ざっとでも通読しておくことを強くお勧めする。</u>
教科書	※「地方公務員制度講義」猪野積著（第一法規） 「地方公務員制度 講義テキスト」（自治大学校） 地方自治小六法（学陽書房）
参考図書	地方公務員制度は憲法、行政法などに関連があるので、これらの学習は地方公務員制度の理解にも役立つ。
効果測定	筆記試験（試験の形式は未定） 60%程度 演習（プレゼン資料及び発表・質疑応答を評価） 40%程度

1-6 地方税財政制度	
担当講師	境 勉（自治大学校客員教授）
プロフィール	立教大学大学院経済学研究科特任教授、自治大学校客員教授 東京都出身。昭和 61 年東京大学法学部卒、自治省（現総務省）入省。 自治財政局交付税課長、調整課長、自治行政局行政課長、地方分権改革推進室次長、大臣官房審議官（財政制度・財務担当）、地方公共団体金融機構理事、地域力創造審議官、地方公務員災害補償基金理事長などを経て令和 3 年退官。 静岡県、宮崎県、鹿児島県、在英国日本大使館でも勤務。
講義の内容	地方税財政制度について、地方財政の意義に始まり、地方財政計画と地方交付税、国と地方の財政関係、国庫支出金、地方税、地方債、地方公営企業、予算と決算、財政健全化制度等の概要を理解するとともに、それぞれに係る課題について、受講生が自らの仕事や出身団体と関連付けて考え、理解を深めることを目指します。
事前課題・持ち物など	事前課題はありませんが、毎回、事後に R P（リアクション・ペーパー）の提出を求めます。
教科書	『日本の地方財政〈第 2 版〉』（神野直彦、小西砂千夫著、有斐閣）
参考図書	毎回、レジュメを配布します。参考文献等は必要に応じ指示します。
効果測定	R P を中心に、毎回の講義における議論への貢献度等を加味して行います。

2. 総合教養課目

2-1 首長講演	
担当講師	中村 時広（愛媛県知事）
プロフィール	昭和 57 年 3 月 慶応義塾大学法学部法律学科 卒業 昭和 57 年 4 月 三菱商事(株) 昭和 62 年 4 月 愛媛県議会議員 平成 5 年 7 月 衆議院議員 平成 11 年 5 月 松山市長（連続 3 期） 平成 22 年 12 月 愛媛県知事（現在 4 期目）
講義の内容	愛媛県施策の紹介、職員に求めることなどを講義し、各都道府県等職員の今後の業務遂行の参考としていただく。
事前課題・持ち物など	特になし
教科書	特になし
参考図書	特になし

2-2 特別講演：「危機の時代」と地方分権	
担当講師	神野 直彦（東京大学名誉教授）
プロフィール	<p>1969年 東京大学経済学部卒業</p> <p>1969年 日産自動車株式会社入社</p> <p>1981年 東京大学大学院博士課程修了</p> <p>1983年 大阪市立大学経済学部助教授</p> <p>1992年 東京大学経済学部教授</p> <p>2003年 東京大学大学院経済学研究科長・経済学部長</p> <p>2008年 地方財政審議会委員・会長</p> <p>2016年 地方財政審議会委員・会長退任</p> <p>2017年 日本社会事業大学学長就任</p> <p>2021年 日本社会事業大学学長退任</p>
講義の内容	<p>私たちは「根源的危機」の時代に生きている。「根源的危機」とは未来への選択を誤れば、人類が絶滅しかねない、やり直しのできない「危機」という意味である。人間が行動様式を変えなければ、人類が絶滅しかねない「危機」の時代に、最悪の選択は「戦争」である。打ち鳴らされる「戦いの太鼓」に煽られることなく、希望の未来への道を歩もうとすれば、地方分権によって地域社会から人間と人間とが温かい手と手を取り合い、自然と調和した社会を築いていくことしかない。そうした未来へのシナリオを求めていくことにしたい。</p>
事前課題・持ち物など	
教科書	特になし。
参考図書	拙著『経済学は悲しみを分かち合うために』（岩波書店、2018年）を参照されたい。

2-4 自治体行政学	
担当講師	辻 琢也（一橋大学大学院法学研究科教授）
プロフィール	一橋大学大学院法学研究科教授。専攻は行政学、地方自治論。1962年北海道生まれ。東京大学大学院博士号取得。東京大学助手、政策研究大学院大学助教授等を経て、2005年から現在に至る。
講義の内容	行政学の観点から政府活動のあり方を理論的に整理すると同時に、戦後日本の政府活動に係る基礎的知識の習得を目指す。講義は次の三つから構成される。(1)「行政組織・官僚制論の視点から政府活動のあり方を整理する」第一部、(2)「Policy InnovationとPolicy Successionという観点から公共政策の変遷を総括的に分析する」第二部、(3)「超高齢・人口減少社会における政策転換という観点から、自治体経営や政府間関係のあり方について論じる」第三部である。
事前課題・持ち物など	講義開始後、進捗にあわせて指示する。
教科書	関連テキスト・資料をその都度、指示する。
参考図書	辻琢也「戦後日本の政府間関係に関する一考察」『地方自治法施行70周年記念自治論文集』 総務省・2018(https://www.soumu.go.jp/main_content/000562256.pdf)他

https://www.soumu.go.jp/menu_seisaku/chiho/02gyosei01_04000320.html 【教務部追記】

2-5 財政学（地方財政の理論）	
担当講師	堀場 勇夫（青山学院大学 名誉教授）
プロフィール	青山学院大学卒業、一橋大学後期課程修了、地方財政審議会会長等を経て現職
講義の内容	<p>講義では、主に地方財政の理論について解説する。経済学の視点から地方財政理論をひとりで勉強することは初学者にとってハードルが高いため、事前の勉強は特に必要ない。むしろ、講義で理論的な思考方法や考え方を身につけることが大切。（講義時間中に確認のための時間を設け質問を受ける予定）</p> <p>最初に、わが国の地方財政の制度とその特徴について考える。それを踏まえ、なぜ、政府が必要なのか、なぜ地方自が必要なのかについて経済学の視点から考える。</p> <p>具体的には、次の内容についての講義を予定している。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 政府(国)の役割と地方政府（地方自治体）の役割に違いがあるのか。なぜ、すべての国に国と地方政府が存在するのか。これらの問題について経済学ではどのように考えているのかについて講義する。また、地方分権がなぜ重要なのかについて経済学の視点から考える。 ② わが国の地方財政制度の特徴について、地方財政計画、地方交付税制度を中心として解説し、その特徴について考える。 ③ 租税論の視点から国税と地方税の違いについて解説する。また、地方税に関する理論を解説する。
事前課題・持ち物など	
教科書	・特になし
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・中井、齋藤、堀場、戸谷(2022)『新しい地方財政論（新版）』、有斐閣 ・佐藤主光(2009)『地方財政論入門』、新世社

2-6 日本社会と税	
担当講師	井手 英策（慶應義塾大学経済学部 教授）
プロフィール	1995年東京大学経済学部卒業。2000年同大学院経済学研究科博士課程終了。日本銀行金融研究所、東北学院大学、横浜国立大学を経て、現職。
講義の内容	日本では税を「払うもの」ではなく、「取られるもの」と考える。なぜこうした否定的な評価が税にはつきまとうのか。なぜ日本の租税負担は国際的に見て低いのに、人びとは税に対して強く反発するのか。「痛税感」と「租税抵抗」をキーワードにしながら、日本の税・財政システムの成り立ちと問題点について考える。そのうえで人口減少・経済の停滞・高齢化のトリプルパンチに見舞われる「縮減の世紀」にあって、どのような税・財政改革が必要となるのかを参加者と一緒に考えることとしたい。
事前課題・持ち物など	講義では資料を配布する。あわせて教科書を読んでおくことを推奨する。
教科書	井手英策『幸福の増税論』岩波新書
参考図書	

3. 公共政策

3-1 政策形成の手續と戦略	
担当講師	大杉 覚（おおすぎ さとる）（東京都立大学法学部教授）
プロフィール	東京大学大学院総合文化研究科より博士（学術）取得。成城大学法学部専任講師、東京都立大学法学部助教授を経て、2005年より現職。
講義の内容	〔構成〕 下記の各項目を予定している。 I 自治体の政策と行政 II 政策形成のモデル III 政策とイノベーション IV 問題状況への接近方法 V 政策の実効性確保
事前課題・持ち物など	受講にあたって、下記について事前に読んでおくこと。 ○ 教科書の全コラム、第3章第1節、第4章
教科書	大森彌・大杉覚『これからの地方自治の教科書』改訂版 第一法規、 発刊年月日 2021-12-03
参考図書	

3-2 公共サービス改革とPPP	
担当講師	佐野 修久（大阪公立大学大学院都市経営研究科教授）
プロフィール	1985 年日本政策投資銀行（当時 北海道東北開発公庫）入行。香川大学大学院地域マネジメント研究科教授、釧路公立大学地域経済研究センター長・教授を経て、2018 年より現職。
講義の内容	<p>地方自治体を巡る最近の動向を踏まえ、PPP の意義、活用形態、活用に当たっての基本的考え方等について、特徴的な事例をみながら検討を行う。主な内容は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. PPP の位置付けと活用の意義 2. 公共サービス型 PPP の概要・形態 <ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな公共施設整備等における PPP ・ 現在提供中の公共サービスにおける PPP 3. 公共施設マネジメントと公有資産活用型 PPP の概要 4. PPP を巡る近年の動きとクラウドファンディング 5. PPP の失敗とよりよい PPP の活用に向けて
事前課題・持ち物など	・ 講義への集中力を高めるため、指名し発言を求めることがある。
教科書	自治体クラウドファンディング（佐野修久）学陽書房
参考図書	まちづくりイノベーション（佐藤道彦・佐野修久編）日本評論社 公共サービス改革（佐野修久編著）ぎょうせい

3-3 統計的思考と政策形成	
担当講師	宮脇 淳（北海道大学名誉教授、株式会社日本政策総研代表取締役社長）
プロフィール	日本大学法学部卒、参議院事務局、経済企画庁、株式会社日本総合研究所主席研究員等を経て、1996年より現職。
講義の内容	<p>[1時限]自治体の政策形成と統計的思考・・・エビデンスに基づく政策 地方自治体の政策形成の従来の構図を整理し、資源制約が強まる時代になぜエビデンスに基づく統計的思考が必要となるのかについて学びます。政策科学のプロセスを学びつつ授業を展開します。また、国や民間等のデータプラットフォームも紹介します。</p> <p>[2時限]観察・分析の統計的思考 政策形成の原点である「観察・分析」における統計的思考の意義と実践的活用について学びます。観察・分析とは何か、如何なる類型・留意点があるかを学び、隠れた課題や新たな視点を見つけ出し政策課題を抽出する統計的思考の視点を高めます。2時限からパソコンを活用します。</p> <p>[3時限]統計分析の実践(基礎編) 政策思考に如何に活かすかをパソコン・エクセルも活用しつつ実践的活用するための基礎を学びます。なお、データ入力等も通じてエクセルによる分析に慣れていただきます。</p> <p>[4時限]仮説設定・検証の統計的思考(応用編) 3時限を踏まえて、アンケート分析・予測等統計手法の政策形成への応用を学びます。</p>
事前課題・持ち物など	<ul style="list-style-type: none"> ・講義は質疑応答も含め相互交流で行います。 ・パソコンによる実践は、受講者相互にサポートすることを意識してください。
教科書	・講義レジュメ、資料等は配布します。
参考図書	

3-4 データサイエンス	
担当講師	市川 宏 (いちかわ ひろし) (統計研究研修所教授)
プロフィール	総務庁 (現総務省) 入省。総務省統計局 (国勢調査の実施等)、政策統括官 (統計基準担当) (経済センサス創設等)、行政管理局 (規制緩和推進)、行政評価局 (独法評価) を担当、統計局調査企画課調査官を経て現職。
担当講師	駒形 仁美 (こまがた ひとみ) (独) 統計センター情報システム部共同利用システム課長)
プロフィール	総務庁 (現総務省) 入省。統計センターで家計調査、消費者物価指数、全国消費実態調査等を担当。
講義の内容	<p>今、社会では、統計的な思考力によって様々な課題を解決していく能力、すなわち“データサイエンス”力の高い人材が求められている。本講義では、“データサイエンス”力の一つとして必要不可欠な統計に関する基礎的な知識を得ることをねらいとし、以下について学ぶ。</p> <p>I. データサイエンス入門 ～データ分析の基礎～ (市川先生) 公的統計の種類・特徴と利用上の注意点、統計データの具体的な入手方法、統計データの見方</p> <p>II. 統計データと統計地理情報システム～e-stat より (駒形先生) jSTATMAP の紹介</p>
事前課題・持ち物など	
教科書	講義レジュメ (その他、参考資料配付予定)
参考図書	

3-5 EBPM—証拠に基づく政策立案	
担当講師	山田 治徳 (早稲田大学政治経済学術院教授)
プロフィール	早稲田大学政治経済学部卒業、米国ジョージタウン大学大学院修了。中央省庁入省後、九州大学法学部助教授を経て、2003年より現職。
講義の内容	<p>政策立案を科学的、合理的な根拠、すなわちエビデンスに基づいて行う EBPM (証拠に基づく政策立案) に対する関心が急速に高まっています。EBPM の推進は、経済社会環境が変化する中において、限られた資源を有効に活用し、住民に信頼される行政運営のためには、きわめて重要な取組みとされています。</p> <p>本講義は、EBPM の基本的な考え方や仕組み、そしてそこで用いられる実証的な分析手法などについて学ぶことで、EBPM の概要、必要性、重要性等について理解することを目的として行います。</p>
事前課題・持ち物など	
教科書	講義レジュメ
参考図書	

3-6 社会調査の方法	
担当講師	小山 弘美 (関東学院大学社会学部准教授)
プロフィール	首都大学東京大学院博士後期課程単位取得退学、博士 (社会学) せたがや自治政策研究所政策研究員・専門社会調査士
講義の内容	行政計画策定の過程において、「市民意識調査」等の統計調査が行われることが多いが、その原理や問題点など、行政担当者にきちんと理解されているのだろうか。たとえ調査自体は外部委託されることが多いとしても、担当者がその本質を理解したうえで調査が行われることが重要である。調査に携わる際、調査企画の設計や調査結果の分析などについて、どこをポイントに注意すべきか学び、身につけることを本講義のねらいとする。 講義では、社会調査全体の構造を概説する。社会調査は、大きく質的調査と量的調査に分かれており、これらの長所短所を知ることによって、社会調査によってわかること・わからないことを認識する。その後、具体的な自治体の調査事例を踏まえながら、現行の調査の問題点を考えていく。
事前課題・持ち物など	所属自治体における市民意識調査等の社会調査実施状況について、事前に確認しておくこと
教科書	講義レジュメ (その他、参考資料配付予定)
参考図書	大谷信介ほか編著 2013年『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房 大谷信介編著 2002年『これでいいのか市民意識調査』ミネルヴァ書房 玉野和志著 2008年4月『実践社会調査入門』世界思想社 森岡清志編著 2007年9月『ガイドブック社会調査 第2版』日本評論社

3-7 政策法務	
担当講師	北村喜宣 (きたむら よしのぶ) (上智大学法学部教授)
プロフィール	神戸大学大学院法学研究科博士課程前期課程修了。横浜国立大学経済学部助教授、上智大学法科大学院長、同法学部教授などを経て2021年より現職。
講義の内容	分権改革がもたらした法環境の変化を踏まえて、自治体は、地域特性を反映した法運用をすることが求められている。中央政府職員も自治体職員も、法律に明文規定がなければ条例はできないと考えている。この発想の問題点を確認し、法定事務に対して条例を制定する解釈論およびその実例を紹介する。
事前課題・持ち物など	政策法務は、憲法、行政法、地方自治制度と深く関わっています。それらを政策法務の糸で紡いでいきます。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義レジュメ ・ 北村喜宣『自治力の闘魂』(公職研、2022年4月) ・ 北村喜宣『リーガルマインドが身につく自治体行政法入門』(ぎょうせい、2018年) ・ 『ポケット六法 令和5年版』(有斐閣)
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 原島良成 (編著) 『自治立法権の再発見』 (第一法規、2020年)

3-8 地域再生論	
担当講師	飯田泰之（いいた やすゆき）（明治大学政治経済学教授）
プロフィール	東京大学経済学部卒業後、東京大学大学院経済学研究科修士課程修了、駒澤大学経済学部専任講師、駒澤大学経済学部准教授を経て現職。
講義の内容	<p>地域経済の現状を把握すると共に、域内経済循環にとって必要とされるクリエイティブ部門の内生化について考える。理論的な整理を与えると共に、質疑を通じて具体的な地域における「人の交流」がもたらす経済成長について考えたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ地域に「稼ぐ力」が必要とされているのか ・地域の「稼ぐ力」とはなにか ・経済成長をもたらす3つの力 ・まとめ
事前課題・持ち物など	
教科書	
参考図書	『地域再生の失敗学』（光文社新書）『これからの地域再生』（晶文社）

3-9 規制影響と分析／評価	
担当講師	岸本充生（大阪大学データビリティフロンティア（IDS）教授）
プロフィール	京都大学大学院経済学研究科博士後期課程を修了後、産業技術総合研究所安全科学研究部門、東京大学公共政策大学院を経て、現職。
講義の内容	<p>地方分権に伴い、自治体レベルで規制を導入したり、規制を緩和したりするケースも増えている。規制の影響を受ける主体に対して、説明責任を果たしながら、政策を進めていくためには規制影響分析/評価が欠かせない。そのため、これまで中央政府レベルで実施されてきた規制の政策評価（事前評価と事後評価）の考え方や手法について、具体的な例に基づきながら分かりやすく解説する。</p>
事前課題・持ち物など	特になし
教科書	特になし
参考図書	<p>規制の政策評価の実施に関するガイドライン 規制に係る政策評価の事務参考マニュアル https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/hyouka/seisaku_n/seisaku_hourei.html#/</p>

3-10 マーケットデザイン	
担当講師	野田 俊也（東京大学大学院経済学研究科講師・UTMD プロジェクトマネージャー）
プロフィール	東京大学経済学部卒業。米スタンフォード大学経済学部博士課程を修了後、加ブリティッシュコロンビア大学経済学部助教授を経て、2021年から現職。専門はマーケットデザイン。テクノロジーが生み出した新しい市場の分析とデザインを研究テーマとする。
講義の内容	マーケットデザインは、数理的なモデルを分析して最適な制度を設計する、いま理論経済学で最も注目されている分野である。講義編では、マーケットデザインとはどのような学問なのか、活用することでどういうことが達成できるのかについて紹介する。単に理論を解説するのみならず、講師のチームがこれまで取り組んできた地方自治体への社会実装事例についても紹介する。
事前課題・持ち物など	なし（スライドは講義直前に配布する予定）
教科書	なし
参考図書	坂井豊貴「マーケットデザイン入門：オークションとマッチングの経済学」（ミネルヴァ書房） アルビン E. ロス「Who Gets What: マッチメイキングとマーケットデザインの新しい経済学」（日経 BP マーケティング）

3-11 行動経済学入門（意思決定のバイアスとナッジ）	
担当講師	佐々木 周作（大阪大学感染症総合教育研究拠点特任准教授）
プロフィール	大阪大学 特任准教授
講義の内容	行動経済学とは、脳科学や心理学分野の人間の意思決定に関する発見を取り入れ、時に失敗したり後悔したりする現実的な人間像を前提にしながら、社会や制度の在り方を検討する学問領域です。また同時に、社会的に推奨される選択を人々が自発的に実行できるようになるにはどのようなコミュニケーションが必要なのかに関する具体策「ナッジ」を提案してきました。現在、行動経済学及びナッジの政策活用が、日本を含む世界中で進んでいます。本講義では、「意思決定の一見不合理な特性」「ナッジ」「公共政策における役割」などについて解説します。
事前課題・持ち物など	担当講師が自主制作した解説動画を事前にご覧してください。 「政策現場のための行動経済学入門：意思決定のバイアスとナッジ 前編（バイアス）」 https://youtu.be/sYtbqwUH-iE 「政策現場のための行動経済学入門：意思決定のバイアスとナッジ 後編（ナッジ）」 https://youtu.be/bpn0LqJBpCE
教科書	特になし
参考図書	特定非営利活動法人 PolicyGarage（編著）『自治体職員のためのナッジ入門：どうすれば望ましい行動を後押しできるか？』公職研，東京，2022年9月。

3-12 デザイン思考とDX	
担当講師	狩野英司（一般社団法人 行政情報システム研究所 主席研究員）
プロフィール	中央官庁、大手シンクタンク、大手メーカー勤務を経て現職。行政や地域のデジタルトランスフォーメーションが専門。行政情報システム研究所 主席研究員、立命館アジア太平洋大学 准教授、事業構想大学院大学 客員教授、自治体アドバイザー（調布市、福井県など）、筑波大学発ベンチャーD' s Link のCEOなどを務める。月刊 J-LIS 誌で「自治体職員のためのデジタル技術の基礎知識」を連載中。
講義の内容	自治体デジタルトランスフォーメーション（DX）の重要性や取り組み方法、デジタル技術の活用に関する実践方法を説明します。特に、DXの課題の発見・定義や解決方針の導出に中心的な役割を担うデザイン思考について、行政の事例も含めて具体的な手法を紹介します。さらに、学んだ知識を基に、オンライン化の導入・改善に効果的なジャーニーマップの作成方法を、実際のワークショップを通じて習得します。
事前課題・持ち物など	関心のあるテクノロジーや業務課題等に関する事前アンケートに回答ください。当日は、自身のパソコンを持ち込んでください。
教科書	講義レジュメ
参考図書	狩野英司, 自治体職員のための入門デジタル技術活用法, ぎょうせい, 2020.6

4. 行政経営

4-1 リーダーシップとマネジメント	
担当講師	鬼澤 慎人（おにざわ まさと）（株式会社ヤマオコーポレーション代表取締役）
プロフィール	上智大学経済学部卒業後、(株)第一勧業銀行、米国投資銀行ソロモン・ブラザーズにて、金融のプロフェッショナルとして活動。その後、茨城県に戻り、2000年より(株)ヤマオコーポレーション代表取締役。現在は、全国各地で経営品質の普及・支援活動に積極的に取り組むとともに、行政（高知県庁・三重県庁など）へも行政経営品質向上の支援を行っている。
講義の内容	行政運営を経営と捉え、その品質を向上して市民から見て価値の高い行政サービスを提供するための考え方や方法を理解することをねらいとしている。
事前課題・持ち物など	なし
教科書	講義レジュメ
参考図書	なし

4-2 管理監督者が実践すべきメンタルヘルス対策	
担当講師	川波 祥子（産業医科）
プロフィール	産業医科大学卒業、放射線科医、専属産業医、労働衛生機関医等を経て現職
講義の内容	職員のメンタルヘルス不調を防止するために、管理監督者が果たすべき役割を理解し実践できるようになることをねらいとする。 「労働者の心の健康の保持増進のための指針」に基づくラインケアの意義と内容を解説するとともに、職員のメンタルヘルス不調への気づきと対応のためのポイント、職場復帰の支援、職場環境の把握と改善等について事例を交えながら解説する。また、管理監督者自身のストレスへの対処方法としてのセルフケア、ストレスコーピングについて学ぶ。
事前課題・持ち物など	特になし
教科書	特になし
参考図書	

4-3 公務職場におけるマネジメント	
担当講師	箕浦龍一（一般社団法人官民共創未来コンソーシアム理事）
プロフィール	<p>元総務省職員。長年国家公務員の人事行政や行政管理の分野で様々なポストを経験した後、2021年7月に大臣官房サイバーセキュリティ・情報化審議官を最後に退官・独立。</p> <p>総務省時代には、オフィス改革や働き方改革に取り組み、2017年の日本行政学会では、「機動力の高いナポレオン型管理職」として紹介。2018年の人事院総裁賞を受賞し、天皇皇后両陛下に拝謁。</p> <p>退職・独立後はフリーランスのコンサルタントとして、働き方改革や組織開発・組織文化変革、ワーケーション、DX、若手公務員の人材育成等の分野で全国の自治体で研修・講演を実施するなどの活動を展開。地域活性化センターのシニアフェローとして「キャリア開発塾」の企画・メイン講師を務めている。2023年2月には観光庁主催の「テレワーク・ワーケーション官民推進協議会」の会長に就任。</p>
講義の内容	<p>DXや働き方改革以前に、伝統的な日本型組織の主要課題の一つには、「マネジメントの未成熟」があると考えられる。DXを実現し、働き甲斐のある公務運営を実現する上でも、マネジメントの立て直しが必要である。日本型組織の多くでは、「マネジメント」＝「管理」と捉え、組織メンバーの人的マネジメントにおいても、「管理」が主眼と捉えられがちであるが、実際には、多くの場面で「管理」は機能していないし、マネジメントが組織パフォーマンスに貢献できていない例が多く散見される状況である。特に、働き方改革や新型コロナウイルスによるビジネススタイルの大きな変化を経る中で、重要困難化する人的資源管理については、日本型組織はこれまであまりにも未熟であったと言わざるを得ない。</p> <p>本講座では、総務省でマネジメントを実践した講師から、その実践経験の紹介も含めて、これからの公務組織におけるマネジメントにどう臨むべきかを実践的に考えます。</p>
事前課題・持ち物など	なし
教科書	なし
参考図書	なし

4-4 自治体の財政運営	
担当講師	小西砂千夫（総務省地方財政審議会会長）
プロフィール	関西学院大学卒 関西学院大学大学院経済学研究科・人間福祉学部教授（令和4年1月まで） 現在、総務省地方財政審議会会長
講義の内容	まず、地方財政制度の骨格について学ぶ。そこでの中心は、地方自治体への法令に基づく事務配分に対して、財源を保障する仕組みであることである。具体的には、地方財政計画を国の予算と整合的に策定し、所要となる財源を最終的に地方交付税等で保障することである。 そのように財源保障がされたなかでも、財政運営を間違えると、自治体は財政悪化に陥る。その点について十分注意をしなければならない。
事前課題・持ち物など	次に記す教科書のなかから、次の箇所を事前に読んでおくことが望ましい。 12～16 頁、49～57 頁、89 頁、209～214 頁、458～460 頁
教科書	小西砂千夫『地方財政学』有斐閣、令和4年
参考図書	

4-5 情報公開と個人情報保護	
担当講師	湯淺 壘道（明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科教授）
プロフィール	青山学院大学法学部卒。九州国際大学法学部教授、同副学長、情報セキュリティ大学院大学情報セキュリティ研究科教授、同副学長をへて2021年より現職。総務省情報通信政策研究所特別研究員、神奈川県、川崎市、渋谷区、町田市ほか各地方公共団体の情報公開個人情報保護関係審議会委員等を務める。
講義の内容	個人情報保護法制の大きな改正により、地方公共団体における個人情報保護制度が大きく変わり、各団体の個人情報保護条例の規定の統一化が図られることになった。他方、公立病院等のいわゆる規律移行法人の扱い、審議会への諮問の原則廃止、議会の取扱い、匿名加工情報、情報公開条例との整合性、オープンデータ、セキュリティとの関係など実務上大きな課題が生じており、それらの問題点と、課題解決に向けて実務上参考となるような考え方を講義する。
事前課題・持ち物など	所属する地方公共団体の個人情報保護条例及び情報公開条例の条文を読んでおくこと。
教科書	特に指定しない。
参考図書	宇賀克也 編著 宍戸常寿・高野祥一 著『自治体職員のための2021年改正個人情報保護法解説』（第一法規）

4-6 個人情報保護の漏えい防止対策	
担当講師	森川 世紀（個人情報保護委員会事務局総務課長）
プロフィール	平成8年4月 自治省に入省。 以後、消防庁予防課、姫路市企画局政策審議室長、埼玉県総務部財政課長、京都府政策企画部企画監、総務省自治行政局市町村課行政経営支援室長等を務める。 令和4年6月 個人情報保護委員会事務局総務課長。
講義の内容	<p>個人情報保護法の目的は、個人情報の有用性に配慮しつつ、国民・住民の個人情報の適正な取扱いを確保し、個人の権利利益を保護することにある。</p> <p>地方公共団体の個人情報保護制度についても、令和3年の改正個人情報保護法の成立により、全国的な共通ルールとして、国の行政機関や独立行政法人、民間企業等と同様に法律（個人情報保護法）において規定されることとなったほか、地方公共団体の制度を含む個人情報保護制度全体の所管が、個人情報保護委員会に一元化されることとなった。</p> <p>また、本年（令和5年）4月1日に改正個人情報保護法が施行され、個人情報保護委員会では、各地方公共団体に対する監視・監督業務についても開始している。</p> <p>個人情報やプライバシーに関する国民の意識が高まりを見せる中、本講義では、今後、地方公共団体内の保護担当者や保護管理者を務める予定の方々を念頭に置き、個人情報の安全管理のために必要かつ適切な措置、地方公共団体における規律等について解説する。</p>
事前課題・持ち物など	なし
教科書	なし
参考図書	<p>個人情報の保護に関する法律についてのガイドライン（行政機関等編）</p> <p>個人情報の保護に関する法律についての事務対応ガイド（行政機関等向け）</p> <p>個人情報の保護に関する法律についてのQ&A（行政機関等編）</p> <p>※ いずれも、個人情報保護委員会ウェブサイト内 https://www.ppc.go.jp/news/r3kaiseihou_feature/ に掲載</p>

4-7 自治体職員のためのコンプライアンス	
担当講師	田中 良弘（立命館大学法学部教授，弁護士）
プロフィール	千葉大学法科大学院修了後，司法試験合格，検事を経て，一橋大学大学院法学研究科修了（博士(法学)）。同研究科特任准教授，新潟大学法学部教授等を経て現職。
講義の内容	自治体職員にとって，日々の活動において法令を遵守すべきこと当然のことである。しかしながら，自治体職員は，担当する業務に関する根拠法令や内部規則には精通していても，自治体職員全体が遵守すべき法の一般原則や，行政通則法その他の一般法については必ずしも十分に理解していないことも多く，無意識のうちに法令違反をしているケースも少なくない。 本講義は，コンプライアンスに関する基礎的な知識を学ぶとともに，自治体職員がついしてしまいがちな法令違反についてケーススタディを行うことで，自治体職員にとって不可欠なコンプライアンスに関する知見を身につけることをねらいとする。
事前課題・持ち物など	事前にレジュメに目を通しておくことが望ましい。
教科書	講義レジュメ
参考図書	・高橋滋監修『これからの自治体職員のための実践コンプライアンス』（第一法規） ・岡田博史『自治体コンプライアンスの基礎』（有斐閣）

4-8 「住民論」と「議会論」	
担当講師	金井 利之（東京大学法学部・大学院法学政治研究科教授）
プロフィール	東京大学法学部卒業後，東京大学法学部助手，東京都立大学法学部助教授，オランダ国立ライデン大学社会科学部客員研究員，東京大学大学院法学政治学研究科助教授を経て現職。
講義の内容	自治体の行政職員にとって，関係の取り方が難しいが，しかし，重要な相手方である，住民と議会について，概説を行う。区域が限定された自治体にとって，住民の大きな特徴は可動性である。そのうえ，人口減少・少子高齢化のなかで，これまでの住民イメージでは捉えられない。さらに，デジタル時代に対応して，オンラインでのつながりを想定する住民制度も，大きな変革期にある。また，議員は住民の代表として，住民の代わりに行政に指揮監督をすることになっているが，一般的には，議会・議員不信は根深く，同時になり手不足も深刻である。これらの諸問題を講義していきたい
事前課題・持ち物など	特になし
教科書	『ホーンブック地方自治(新版)』（北樹出版）『自治体議会の取扱説明書』（第一法規）
参考図書	特になし

4-9 住民協働	
担当講師	名和田 是彦（法政大学法学部教授）
プロフィール	1955年山口県生まれ。東京大学、横浜市立大学、東京都立大学を経て、2005年より法政大学法学部教授。1993年から95年までドイツ留学。コミュニティ政策学会会長、法社会学会理事。
講義の内容	ドイツなどと比較しながら日本の地域コミュニティの特徴を、自治会・町内会の現状と都市内分権政策などを通して分析する。今後の展望として、地域活動の専門性の強化、法人化、市民活動支援のあり方、居場所づくりの重要性などについて考える。
事前課題・持ち物など	各自の勤めている又は住んでいる自治体のコミュニティ政策（地域集会施設に関する政策や都市内分権制度、自治会・町内会への支援、市民活動支援など）について概略を整理しておくとい。
教科書	名和田是彦『自治会・町内会と都市内分権を考える』（2021年、東信堂）
参考図書	名和田是彦編著『コミュニティの自治』（日本評論社、2009年）

4-10 ファシリテーション	
担当講師	加留部 貴行（九州大学大学院統合新領域学府 客員教授、NPO法人日本ファシリテーション協会 フェロー）
プロフィール	1967年福岡県出身。九州大学法学部卒業後、西部ガス㈱入社。2001年に福岡市へNPO・ボランティア支援推進専門員として2年半派遣。2007年から九州大学へ出向し、ファシリテーション導入を通じた教育プログラム開発などを担当。企業、大学、行政、NPOの4つのセクターを経験した「ひとり産学官民連携」を活かした共働ファシリテーションを実践。2011年4月に独立。現在は、加留部貴行事務所 AN-BAI 代表。NPO法人日本ファシリテーション協会では九州支部長、副会長、会長を経て現在フェロー。他に、総務省地域づくり人材の養成に関する調査研究会構成員、早稲田大学マニフェスト研究所人材マネジメント部会専門幹事など。年間300件近くの会議・研修・ワークショップなどの企画・進行等に関わっている。著書に『チーム・ビルディング』、『教育研修ファシリテーター』（いずれも共著・日本経済新聞出版社）など。
講義の内容	<p>自治体の業務において様々な多様な主体との協働(共働)・共創・連携が求められている。この課目では、その際に必要となる「ファシリテーション」の基本的な知識や考え方への理解を深め、対話の場づくりの実際を参加者同士の対話を通じて体感しつつ、その場づくりの工夫やこれからの対話の必要性などについて様々な事例を交えながら実践的かつ実務的な視点から解説する。</p> <p>特に、総合計画をはじめとする各種計画策定、産学官民などによるプラットフォームの構築、アクティブラーニングを踏まえた学びの場づくり、職場をはじめとする多職種連携の推進など多様な現場へのヒントにつながることをめざして実施する。</p>
事前課題・持ち物など	特になし。
教科書	『参加したくなる会議のつくり方 ～公務員のためのファシリテーション入門』（加留部貴行、ぎょうせい、2021年）
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・『「対話」で変える公務員の仕事 ～自治体職員の「対話力」が未来を拓く』（今村寛、公職研、2021年） ・『公務員のための場づくりのすすめ』（助川達也、公職研、2021年） ・『組織・人材開発を促進する 教育研修ファシリテーター』（堀公俊・加留部貴行、日本経済新聞出版社、2010年） ・『ワールド・カフェをやろう』（香取一昭・大川恒、日本経済新聞出版社、2009年） ・『ワークショップ・デザイン ～知をつむぐ対話の場づくり』（堀公俊・加藤彰、日本経済新聞出版社、2008年）

4-11 自治体の広報戦略とコミュニケーションの手法	
担当講師	河尻 和佳子（千葉県流山市役所総合政策部マーケティング課長）
プロフィール	民間企業で14年間営業やマーケティングに従事。住む街であり愛する流山市でそれらを活かしたいと一般任期付職員へ応募し、2009年に前例のない自治体マーケティングを担当する。 首都圏を中心に話題となった「母（父）になるなら、流山市。」プロモーションや、年間16万人を集客する「森のマルシェ」イベントを立ち上げた。全国で開催が広がる街への愛をプレゼンバトルする「シビックパワーバトル」の発起人でもある。地方公務員が本当にすごいと思う地方公務員アワード2020を受賞。
講義の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域マーケティングがわかる ・地域の強みを見つける ・「伝える」「伝わる」がわかる ・シビックプライドを知る ・ブランディングの基礎がわかる
事前課題・持ち物など	自分の住む、または勤務する街の強みと弱みについて考えてきてください。
教科書	
参考図書	「シビックプライド」（宣伝会議）、「流山がすごい」（新潮社）、「市民は行政と協働をつくれるか」（彩流社）、「シティプロモーションでまちを変える」（彩流社）、「もしわたしが株式会社流山市の人事部長だったら」（木楽舎）、「コミュニティマーケティング」（日本実業出版社）、「マイノリティデザイン」（ライツ社）など。

4-12 DX時代の人材育成	
担当講師	稲継 裕昭（早稲田大学政治経済学術院教授）
プロフィール	京都大学法学部卒業。姫路獨協大学助教授、大阪市立大学教授、同法学部長を経て、2007年より現職。総務省人材育成等専門家、公務人材開発協会理事。
講義の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. DX時代の自治体 2. DX時代に求められる自治体人材像 3. デジタル専門人材、デジタル人材、アナログ人材 4. 求められる人材を育成するために 5. 人材マネジメントシステム—トータルな視点で考える 6. マネジメントシステムの中核に位置する人事評価制度 7. 人事評価制度を活用した人材育成 8. 人材獲得再考 9. 研修システム再考 10. 職場研修再考 11. 人事異動再考 12. 定年延長と人材育成
事前課題・持ち物など	・自団体における人材育成基本方針、人事評価マニュアルを予め読んだうえで受講してください。（可能な人は持参してください）
教科書	<p>レジュメ。</p> <p>稲継裕昭/自治研修協会『パソコンで学ぶ地方公共団体の人事評価』自治研修協会。（新訂版 6刷・増補 令和3年7月発行）</p> <p>稲継裕昭・大谷基道『現場のリアルな悩みを解決する！職員減少時代の自治体人事戦略』ぎょうせい（2021年10月 発売）</p>
参考図書	稲継裕昭『評価者のための自治体人事評価Q&A』ぎょうせい

4-13 DX推進におけるマネジメント	
担当講師	原田 智（公益財団法人 京都産業21 DX推進監兼CISO）
プロフィール	元 京都府 CIO兼CISO 情報政策統括監 総務省 地域情報化アドバイザー、自治体DX検討会等の委員を歴任 京都府の情報政策、税部門において、市町村基幹系システムの共同化、それをベースとした課税を含む税業務の共同化等、デジタル技術を活用した業務改革に取り組む。
講義の内容	<p>人口減少時代に自治体の中核を担う職員にとって、人口に合わせて減少する少数の職員で住民の期待に応え続けていくためには、業務効率化の取組は避けられないものであり、その手段として、クラウド、AIを始めとするデジタル技術は必要不可欠なものとなっています。</p> <p>この講義では、現実の業務に即して、どのようにデジタル技術を活用するのか、またその効果を十分に発揮できるように、どのように業務を改革すればよいのかを、業務改革プロジェクトの企画から調達、完了までの過程に沿って説明します。</p> <p>受講された皆さんが、本講義の内容を実際の業務におけるDXの取組に生かしていただくことをねらいとします。</p>
事前課題・持ち物など	特になし
教科書	講義レジュメ（その他、参考資料配付予定）
参考図書	特になし

5. 地方公共団体を巡る最新の話題

5-1 我が国におけるDXの動向	
担当講師	須藤 修（東京大学名誉教授、中央大学国際情報学部教授、中央大学 ELSI センター所長、東京大学大学院情報学環特任教授）
プロフィール	東京大学大学院博士課程修了。東京大学新聞研究所助教授、同社会情報研究所助教授、同教授、同大学院情報学環教授、同学環長・大学院学際情報学府長、東京大学総合教育研究センター長などを経て、2020年より中央大学教授。
講義の内容	<p>SNS、スマートフォンを支えるクラウドコンピューティング、IoT、人工知能(AI)、メタバースは、世界の ICT の活用動向に大きな影響を与え、社会システムの刷新を迫っている。そこでまずクラウドコンピューティング、IoT、人工知能、メタバースなどの展開状況について、その概要と行政システム（デジタル田園都市国家構想）や医療システムなどでの活用について示す。特にヨーロッパ連合加盟諸国の動向、OECD、UNESCO など国際機関の主要動向についても概観する。</p> <p>そのうえで、我が国のデジタル・トランスフォーメーション (DX)、Society5.0、ICT政策などの状況について紹介し、特に政府DX、自治体DXについて理解を深める。</p>
事前課題・持ち物など	なし
教科書	配布資料（スライド資料）
参考図書	なし

5-2 情報セキュリティ	
担当講師	満永 拓邦（東洋大学情報連携学部准教授）
プロフィール	<p>京都大学情報学研究科修了後、ベンチャー企業にてセキュリティ事故対応や研究開発に携わり、平成 22 年度・経済産業省新世代情報セキュリティ研究開発委託事業「効率的な鍵管理機能を持つクラウド向け暗号化データ共有システム」にプロジェクトリーダーとして従事。</p> <p>その後、JPCERT/CC早期警戒グループに着任し、標的型攻撃などのサイバー攻撃に関する分析業務を行う。2020年から現職。</p>
講義の内容	<p>近年、ますますサイバー攻撃は巧妙化しており、企業の情報資産に対する脅威は増加しております。組織としてサイバー攻撃へ対応するためには、攻撃者の動向にも目を向けつつ、事前の準備に加えてインシデント時に迅速に対応出来る体制を構築する必要があります。</p> <p>本講演では、最近の攻撃動向をわかり易く説明し、組織としてどのように立ち向かっていくべきかについて講演者の経験や知見をもとに解説します。</p>
事前課題・持ち物など	なし
教科書	なし
参考図書	『サイバー攻撃からビジネスを守る』（NTT 出版）『C S I R T』（NTT 出版）

5-3 自治体 DX の推進と地域社会のデジタル化

担当講師	大村 慎一（総務省 官房 地域力創造審議官）
プロフィール	昭和62年 4月 自治省入省（税務局企画課） 昭和62年 7月 鳥取県地方課 平成 元年 4月 自治大学校研究部 平成 2年 6月 自治省財政局地方債課 平成 4年 4月 札幌市調整課長 平成 6年 4月 岐阜県企画調整課長、財政課長 平成10年 4月 自治省税務局府県税課課長補佐 平成10年 7月 内閣官房副長官秘書官 平成12年 7月 自治省財政局財政課課長補佐 平成13年 1月 総務省自治財政局財政課課長補佐 平成13年 4月 総務省自治財政局調整課課長補佐 平成14年 1月 総務省自治財政局調整課理事官 平成14年 4月 北九州市財政局長 平成17年 4月 総務省大臣官房企画課企画官 平成18年 7月 総務省大臣官房広報室長 平成20年 7月 総務省自治税務局都道府県税課税務管理官 平成21年 4月 静岡県総務部長 平成22年 1月 静岡県副知事 平成24年 1月 総務省大臣官房付 兼 内閣府地域主権戦略室参事官 平成24年 9月 内閣官房副長官補付内閣参事官 平成25年10月 兼 内閣官房2020年オリンピック・パラリンピック 東京大会推進室参事官 平成26年 7月 総務省自治財政局公営企業課長 平成27年 7月 総務省大臣官房参事官（秘書課担当） 平成29年 7月 内閣官房内閣審議官 兼 内閣府地方分権改革推進室次長 平成30年 7月 総務省消防庁国民保護・防災部長 平成30年11月 総務省自治行政局公務員部長 令和 2年 7月 総務省大臣官房地域力創造審議官 令和 3年 7月 総務省新型コロナ対策地方連携総括官 兼 内閣官房孤独・孤立対策担当室長代行 令和 3年12月 兼 内閣官房孤独・孤立対策担当室長 令和 4年 6月 現職
講義の内容	人口減少、少子高齢化がますます進展していく中で、自治体は限られた職員でより多く・よりきめ細やかな行政サービスの提供が求められるほか、地域の活性化や交通、買い物支援等地域における課題にも対応していく必要があります、デジタル技術も活用して新しい価値の創出や仕組みを変えていく、自治体 DX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進が喫緊の課題です。 これらを踏まえ、総務省が展開する、自治体 DX 推進に向けた各種支援策や自治体・地域における参考事例についてご説明します。
事前課題・持ち物など	特になし
教科書	特になし
参考図書	特になし

5-4 デジタル田園都市国家構想	
担当講師	村手 聡（内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局次長）
プロフィール	<p>東京大学法学部卒業。昭和 63 年自治省入省。</p> <p>富山県地方課、自治省財政局調整室、八戸市財政部長、熊本県財政課長、総務省自治財政局調整課理事官、高知県森林局長、岡山市副市長、復興庁参事官、総務省自治税務局固定資産税課長、群馬県副知事、総務省地域力創造グループ地域政策課長、地方公務員共済組合連合会理事、内閣府大臣官房審議官（防災担当）、総務省自治大学校長などを経て、令和 4 年 7 月より現職。</p>
講義の内容	<p>国においては、デジタルの力を活用して地方創生を加速化・深化し、「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指す「デジタル田園都市国家構想」の実現に向けて取組を進めている。</p> <p>本講義では、同構想の背景や令和 4 年 12 月に閣議決定した「デジタル田園都市国家構想総合戦略」の内容や今後の取組、同構想の実現を支援する施策、取組事例等について解説を行う。</p>
事前課題・持ち物など	なし
教科書	なし
参考図書	なし

5-5 デジタル社会の実現に向けた重点計画	
担当講師	林良樹（デジタル庁戦略組織 G 参事官補佐）
プロフィール	2015年に財務省入省。同省にて法令審査・国会対応やサイバーセキュリティ対策、国税調査・査察（高松国税局）、外国税制調査等に従事。また総務省にて特別定額給付金の企画を担当。現在、デジタル庁にて戦略企画及びマイナンバー総括を担当（参事官補佐）。
講義の内容	政府の目指すべきデジタル社会を解説した「デジタル社会の実現に向けた重点計画」について、ポイントに絞って解説する。
事前課題・持ち物など	—
教科書	講義レジュメ
参考図書	—

5-5 デジタル原則と規制の見直し	
担当講師	辰川貴大（デジタル庁デジタル臨時行政調査会事務局主査）
プロフィール	平成29年総務省に入省後、長野県庁へ出向。その後、総務省消防庁、総務省自治財政局財政課等での勤務を経て、令和5年4月より現職。
講義の内容	デジタル原則を踏まえたアナログ規制の見直しに係る国の取組状況についてご紹介した上で、地方公共団体におけるアナログ規制の見直しの状況や、各団体における取組を支援するための国の取組内容等について説明を行う。
事前課題・持ち物など	—
教科書	講義レジュメ
参考図書	—

5-6 情報化社会と人権	
担当講師	佐藤 佳弘 ((株) 情報文化総合研究所 代表取締役、武蔵野大学 名誉教授)
プロフィール	<p>東北大学を卒業後、富士通(株)に入社。その後、東京都立高等学校教諭、(株)NTTデータを経て、現在は(株)情報文化総合研究所 代表取締役、武蔵野大学 名誉教授、早稲田大学大学院 非常勤講師。</p> <p>他に、西東京市 情報政策専門員、東京都人権施策に関する専門家会議 委員、愛知人権施策推進審議会 委員、埼玉県 人権施策推進懇話会 委員、東久留米市 個人情報保護審査会 会長、東村山市 情報公開運営審議会 会長、東久留米市 情報公開審査会 委員、東村山市 個人情報保護運営審議会 委員、東大和市教育委員会いじめ問題対策委員会 委員、京都府インターネットと人権に関する府民講座 講師、西東京市 社会福祉協議会 情報対策専門員、NPO法人 市民と電子自治体ネットワーク 理事、大阪経済法科大学 アジア太平洋研究センター 客員研究員。(すべて現職) 専門は、社会情報学。1999年4月に学術博士(東京大学)を取得。</p>
講義の内容	<p><ねらい></p> <p>ネット上の人権侵害の現状や法制度、社会の取り組み、対処方法、課題などを学ぶ。それにより行政に関わる者として人権尊重社会の実現に必要な資質を向上させる。</p> <p><概要></p> <p>ネット人権侵害の現状と社会の対応について、具体的な事例や映像を交えて解説する。次の内容構成で講義を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ネット社会の現状～インターネットがもたらした問題の概要と人権侵害の発生状況 2. ネット上での人権侵害～インターネットを悪用した人権侵害の現状と事例 3. ネット時代の法制度～ネット人権侵害に関連する法制度の現状 4. 悪質書き込みへの対処～国や自治体の取り組みと残されている課題
事前課題・持ち物など	・特になし
教科書	配布資料
参考図書	<p>『インターネットと人権侵害』佐藤佳弘著、武蔵野大学出版会、ISBN 978-4903281-27-8、2016年2月</p> <p>『ネット中傷 駆け込み寺』佐藤佳弘・スマイ・キチ著、武蔵野大学出版会、ISBN 978-4-903281-51-3、2021年4月</p>

5-7 多文化共生と地域社会	
担当講師	田村 太郎 (ダイバーシティ研究所代表理事)
プロフィール	1995年多文化共生センター事務局長就任。同センター代表、自治体国際化協会参事等を経て、2009年より現職。東日本大震災直後に内閣官房企画官、復興庁設置後は上席政策調査官を兼務。現在も復興庁・復興推進参与として東北復興に携わる。共著に『阪神大震災と外国人』『多文化共生キーワード事典』などがある
講義の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本で暮らす外国人の概要 統計資料をもとに在留外国人の現状や入管法についての基礎知識を紹介 2. 多文化共生をめぐる施策の変遷 国内の主な自治体施策の変遷と海外の移民に関する都市政策を解説 3. 地域における多文化共生の推進について 総務省のプランなどを紹介しながら、地域で多文化共生を進めるうえでのポイントを解説
事前課題・持ち物など	「多文化共生事例集」(2021年8月・総務省) および「外国人との共生社会の実現に向けたロードマップ」(2022年6月・関係閣僚会議) に目を通してくること
教科書	当日配布
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生事例集(令和3年度版) 総務省 https://www.soumu.go.jp/menu_seisaku/chiho/tabunkakyousei_suishin_r03.html https://www.soumu.go.jp/main_content/000765992.pdf ・外国人との共生社会の実現に向けたロードマップ(出入国在留管理庁) https://www.moj.go.jp/isa/policies/coexistence/04_00033.html https://www.moj.go.jp/isa/content/001374707.pdf(概要版)

5-8 地域医療の課題と展望	
担当講師	太田 匡彦（東京大学大学院法学政治学研究科教授）
プロフィール	東京大学法学部卒業、同助手、講師、助教授(准教授)を経て現職。
講義の内容	それぞれの地域における医療供給体制、とりわけ病院配置のあり方にとって重要な意味を持つ医療計画に関する法制度を講義する。どのような法的仕組みがどのように結びつけられているのか、そこに何が期待されているのかに注意しながら考察をすることとしたい。あくまでも法制度の講義であり、実務上の政策課題やそれを解決するためのノウハウを講義する訳ではない点には注意のこと。政策を実現するための法的手法とそれが持つ意味・問題とに焦点が合わされる。
事前課題・持ち物など	医療法（昭和23年法律205号）第1章、第4章第1節、第5章の諸規定、健康保険法（大正11年法律70号）65条及び任意の都道府県の医療計画に目を通しておくことが望ましい。また、行政法・公的医療保険法の基本的な理解を有していることは前提となっている。これに欠ける場合は、予め行政法等の講義等を受講するか、教科書・入門書等に目を通しておくことが必要である。
教科書	講義レジュメ、資料を配布する
参考図書	島崎謙治『日本の医療——制度と政策（増補改訂版）』（東京大学出版会、2020年）、とりわけ第9章、第10章

5-9 地域福祉の課題と展望	
担当講師	小林 雅彦（国際医療福祉大学大学院教授）
プロフィール	日本社会事業大学大学院修士課程修了。川崎市社会福祉協議会、全国社会福祉協議会、厚生（労働）省社会・援護局地域福祉専門官、国際医療福祉大学医療福祉学部長・教授を経て現職。
講義の内容	<p>地域の様々な福祉問題を取りあげながら、その背景にある家族や地域社会の構造変化に対する理解を進める。その上で、公私の幅広い関係者の協働による対応の具体策、地方自治体内部での福祉施策と他分野の施策との連携や総合的推進策、都道府県と市町村のそれぞれの役割と両者の連携協働のあり方、さらに公私の連携及び協働のあり方等を学ぶ。講義内容の項目は概ね以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域社会の構造変化 2. 地域福祉の沿革（理念と法制度） 3. 地域福祉の現代的課題と個別の対応策 4. 地域福祉の課題解決と地方自治体の役割
事前課題・持ち物など	・特になし
教科書	講義レジュメ
参考図書	

5-11 社会保障改革の動向と課題	
担当講師	宮本 太郎（中央大学法学部教授）
プロフィール	中央大学法学研究科博士課程単位取得退学。立命館大学教授、北海道大学教授を経て2013年より現職。
講義の内容	<ul style="list-style-type: none"> *これまでの日本の社会保障はいかなる特徴があったか *従来の仕組みはなぜ、どのように機能不全に陥っているか *コロナ禍のなかで社会保障のどのような問題点が浮上したか *こうした事態に対処する社会保障改革には何が求められるか *新しい社会保障は支え合いのかたちそのものの転換 殻の保障から翼の保障へ *社会保障の主な担い手は国から自治体へ *とくに困窮や孤立に対処していく自治体の政策はどうあるべきか。 生活保護改革、生活困窮者自立支援制度について 地域共生社会について *諸政策を連携させ効率的かつ効果的に執行するかについての取り組みの実例
事前課題・持ち物など	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の論点について受講者の意見を求めることがある。 ・教材の一部でも目を通しておくことが望ましい。
教科書	宮本太郎『共生保障 「支え合い」の戦略』岩波新書 (別に講義資料を配付する)
参考図書	

5-12 地方公共団体の感染症対策（特に新型コロナウイルスへの行政対応と保健所の役割）	
担当講師	越田 理恵（金沢市福祉健康局担当局長 兼 保健所長）
プロフィール	金沢大学医学部卒業、金沢大学附属病院、石川県立中央病院等の小児科勤務後、金沢市に入職。保健所、福祉健康センター、健康政策部署、こども福祉部署、児童相談所、教育委員会、等を経て、保健局長、令和3年度より保健所長兼務
講義の内容	世界を震撼させたスペイン風邪のパンデミックからちょうど100年、新型コロナウイルス感染症の世界的流行を受けて、地方公共団体ではどのように対応したのか。地域の感染症対策の中心は都道府県であるが、基礎自治体、健康危機管理を司る行政組織である保健所はどのような位置づけで、どのように関わっているのかを新型コロナ対応の現場対応に携わっている立場から解説する。 地域の感染症対策、予防接種法に基づくワクチン接種についても、今般の新型コロナ対策を踏まえて、公衆衛生学的観点から分かりやすく解説する。
事前課題・持ち物など	それぞれの自治体が、昨年来どのように新型コロナウイルス感染症対策に関わってきたかを整理しておいてください。
教科書	・講義レジュメは、参考資料として、当日利用のパワーポイント抜粋を配付予定
参考図書	

5-13 グリーン社会の実現と求められる地方自治体の役割	
担当講師	橘川 武郎（国際大学副学長・大学院国際経営学研究科教授）
プロフィール	東京大学大学院単位取得退学、経済学博士、東京大学・一橋大学教授などを経て現職。
講義の内容	一昨年10月の菅前首相の所信表明演説を機に、日本でも、2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする動き、つまりカーボンニュートラルをめざす動きが強まっている。本講義では、カーボンニュートラルを実現するためには何をなすべきか、そこで地方自治体が果たすべき役割は何か、について考察する。
事前課題・持ち物など	できれば、下記の教科書を読んでおくこと（特に序章・第6章・おわりに）。
教科書	橘川武郎『エネルギー・シフト（第6刷）』白桃書房、2022年。
参考図書	特になし。

5-14 地域経済の活性化と自治体の役割	
担当講師	中村 智彦（神戸国際大学経済学部教授）
プロフィール	上智大学文学部卒業、名古屋大学大学院国際開発研究科修了（学術博士） 総務省地域創造力アドバイザー、山形県川西町総合計画アドバイザー、向日市ふるさと創生計画委員会委員長、東京都北区ネスト赤羽支援機能拡充検討委員会委員長
講義の内容	<p>コロナ禍は、これまで長期的な課題としてきた地方経済の問題を一気に露わにしました。今回は、講師が関わってきた自治体のこの20年間の変遷を題材としながら、現在の状況を分析しつつ、今後、どのような問題が起こるのかを検討します。</p> <p>短い時間ですので、全てを取り上げることはできませんが、農業、商業、工業、そして観光に関しても、地域の事例を見ながら、考えていきたいと思います。</p>
事前課題・持ち物など	それぞれの自治体における人口推移、産業の状況について、事前にご用意ください。
教科書	なし
参考図書	これまでの執筆記事が掲載されていますので、時間がある時にご覧ください。 Yahoo!ニュース 中村智彦の地域経済研究 https://news.yahoo.co.jp/byline/nakamuratomohiko

5-15 食と環境を守る自治体の農林水産政策	
担当講師	末松 広行（東京農業大学総合研究所特命教授、元農林水産省事務次官）
プロフィール	農林水産省において、米政策、環境バイオマス政策、水産政策、森林林業政策などを担当。経済産業省において、産業技術環境政策を担当。総理官邸、長崎県諫早市等に出向経験あり。現在は、東京大学客員教授、東京農大特命教授、地域活動の支援、顧問等
講義の内容	<p>地域の農林水産業は経済を回し、食料安全保障、環境保全のために重要な役割を果たしうる。</p> <p>地域資源をうまく使って、地域活性化を図るために自治体として何をすべきかについてともに考える。</p>
事前課題・持ち物など	
教科書	末松広行『日本の食料安全保障－食料安保政策の中心にいた元事務次官が伝えたいこと』（育鵬社、2023年）
参考図書	

5-16 観光政策論	
担当講師	山田 桂一郎 (JTIC. SWISS 代表)
プロフィール	<p>1992年JTIC. SWISS設立。</p> <p>スイス ツェルマツト観光局、クラン-モンタナ観光局、ヴェルビエ観光局、ヴァレー州観光局 元日本市場プロモーション担当</p> <p>観光カリスマ百選（内閣府、国土交通省、農林水産省認定）、総務省地域力創造アドバイザー、内閣官房地域活性化伝道師、内閣官房クールジャパン地域プロデューサー、環境省環境カウンセラー（事業者部門・市民部門）、日本エコツーリズム協会理事、まちづくり観光研究所主席研究員、地域経営支援ネットワーク ComPus 研究員、北海道大学観光学高等研究センター客員教授、和歌山大学政策研究アドバイザー&南紀熊野サテライト客員教授、奈良県立大学客員教授、富山福祉短期大学客員教授、東京大学公共政策大学院講師、にっぽん炊き込みごはん協会代表、NEWSPICKSプロピッカー等</p>
講義の内容	<p>地域振興を推進する上で重要な課題や問題に対して、事実に基づいたデータと様々な事例から多様な考え方や実践的な取り組み方などについて経済面と経営面からわかりやすく解説する。</p> <p>また、地方創生を進める上で自治体職員が地域経営の視点と感覚を持つことの重要性、自治体が果たなければならない使命や役割、住民や事業者が自ら主体的に活動するためのしくみや組織についても解説する予定。</p>
事前課題・持ち物など	<ul style="list-style-type: none"> ・講義中に行うクイズや質問には積極的に参加して頂きたい。 <p>それぞれの都道府県・市町村が進める総合計画、総合戦略の把握。</p>
教科書	<p>「観光立国の正体」新潮社</p> <p>「知られざる日本の地域力」今井出版</p>
参考図書	

5-17 地域政策とまちづくりの課題	
担当講師	瀬田 史彦（せた ふみひこ）（東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻准教授）
プロフィール	東京大学工学部都市工学科卒業。同大学先端科学技術研究センター助手、大阪市立大学大学院創造都市研究科准教授を経て、2012年より現職。 その他、アジア工科大学（タイ）客員助手、シュトゥットガルト大学（ドイツ）客員研究員、国際協力機構(JICA)短期専門家などを経験。
講義の内容	<p>地域政策における重点テーマは時代とともに変遷しているが、「まちづくり」においても同様に、時代に合った取り組みが必要とされている。</p> <p>本講義では、今後の高齢化・人口減少社会に対応したまちづくりについて、その変遷と、国内外の事例を通じて理解することをねらいとする。</p> <p>主に以下のような内容を予定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コンパクトシティ政策（立地適正化計画・中心市街地活性化など） ・ 公共施設再編（公共施設等総合管理計画・ファシリティマネジメントなど） ・ 広域連携（事務の共同処理、様々なタイプの自治体間連携、官民連携など）
事前課題・持ち物など	特になし
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 『広域計画と地域の持続可能性』（大西隆編著：学芸出版社） ・ 『都市計画学：変化に対応するプランニング』（中島・村山・瀬田他著：学芸出版社） ・ 講義レジュメ
参考図書	国土交通省「国土のグランドデザイン2050 ～対流促進型国土の形成～」 (https://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/kokudoseisaku_tk3_000043.html) (パワポ資料となっている参考資料[1][2]をご覧ください。)

5-18 人口減少時代に向けた都市計画	
担当講師	中島直人（なかじま なおと）（東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻准教授）
プロフィール	東京大学卒業後、東京大学大学院工学系研究科 助手、慶應義塾大学環境情報学部 専任講師を経て現職。
講義の内容	<p>都市計画は自治体経営の根幹をなす取り組みであり、自治体職員は都市計画の担い手として期待される。本講義では、都市計画について、都市計画法制度に留まらず、その背景にある基本的な考え方や歴史的な文脈へと視野を広げて理解することをねらいとする。</p> <p>都市計画とは何か？都市計画という社会技術が誕生した歴史的背景から現在の都市計画が抱えている課題や展望まで、具体的な事例を交えながら分かりやすく解説する。</p>
事前課題・持ち物など	講義への集中力を高めるため、指名をして発言を求めることがある。
教科書	中島直人ほか『都市計画学 変化に対応するプランニング』（学芸出版社）2018年
参考図書	

5-19 地域を持続可能とする公共交通維持・確保策	
担当講師	加藤 博和（名古屋大学大学院環境学研究科 教授）
プロフィール	名古屋大学工学部土木工学科卒業。同大学院工学研究科博士後期課程修了。同助手、環境学研究科准教授を経て、2017年より教授。2013～2023年の間、国土交通省交通政策審議会委員を務める
講義の内容	<p>少子高齢化や人口減少の進展、運転士等担い手の不足を背景に、地方部のみならず都市部においても、住民生活を支える地域公共交通網が維持困難となっている。一方で、地域の活力維持やインバウンド対応、高齢者や子どもの移動手段確保といった観点から地域公共交通網確保・維持の重要性が広く認識されてきている。2007年施行の地域公共交通活性化再生法は、持続可能な地域公共交通網の形成に取り組むべき主体として第一に地方公共団体を挙げており、その具体的で実効性ある取組が期待されている。さらにコロナ後の需要減少に対応した公共交通のあり方を確立する必要もある。</p> <p>本講義では、地域公共交通に関する現状や存在意義、確保維持策の概要を学び、住民の暮らしを守るために地方公共団体が何を行うべきかを考える。</p>
事前課題・持ち物など	所属する自治体の公共交通計画（あれば）を一読すること。また、地元の路線バス・コミュニティバスの過去の乗車経験から、利用状況、良かった点や悪かった点、改善策の案などを各自検討し、地元の公共交通の現状を踏まえてから、講義に臨むこと。
教科書	なし
参考図書	事前に参考となる講師の原稿を配布するので一読しておくこと。

5-20 道路の維持・更新	
担当講師	宮里 心一（金沢工業大学工学部教授）
プロフィール	東京工業大学卒業、同大学院博士後期課程中退、同大学助手、金沢工業大学講師、准教授を経て現職。国土交通省道路技術小委員会橋梁分野会議 有識者。土木学会インフラメンテナンス総合委員会 知の体系化小委員会 教材開発支援分科会 主査。
講義の内容	<p>道路や水道などは、住民の生活に欠かせない。ただし、これらの多くは、高度経済成長期に整備され、50年以上が経過する。そのため、老朽化により劣化が進行し、物理的寿命を迎えたインフラもある。また、過疎化やコンパクトシティ化に伴い、今後は利用者が減少し、社会的寿命を迎える橋もある。</p> <p>本講義では、限られた財政や人材で、自治体の管理するインフラ構造物を合理的にメンテナンスする必要性を理解し、その対策方法を考えることをねらいとする。</p>
事前課題・持ち物など	自身の自治体の橋梁長寿命化修繕計画に目を通すことが望ましい。
教科書	講義レジュメ
参考図書	

5-21 災害危機管理	
担当講師	目黒 公郎（東京大学生産技術研究所教授）
プロフィール	東京大学大学院工学系研究科博士課程修了後、同大学生産技術研究所の助手・助教授を経て現職。また現在、同大学院情報学環総合防災情報研究センター長を務めるとともに、放送大学客員教授なども兼務。日本地震工学会会長、地域安全学会会長、日本自然災害学会会長、国際地震工学会理事等を歴任。
講義の内容	<p>本講では、災害発生のメカニズムと防災の基本を学ぶとともに、将来の被害を最小化するために、事前から復旧・復興期までの災害対策を、どのように考え、どのように効率的に進めていくべきか、自治体職員（特に災害対応の責任者）が参考にできるよう実践的知識を習得する。また地域防災計画のあるべき姿とその運用法を学ぶこともねらいとする。</p>
事前課題・持ち物など	なし
教科書	講義レジュメ、『地域と都市の防災』目黒公郎・村尾修（放送大学教育振興会）
参考図書	なし

5-22 地域の防災対策	
担当講師	鍵屋 一（跡見学園女子大学観光コミュニティ学部教授）
プロフィール	跡見学園女子大学観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科教授。法政大学大学院政治学専攻修士課程修了。京都大学博士（情報学）。元板橋区職員。内閣官房、内閣府、経済産業省、国土交通省・厚生労働省の防災関係検討会の座長など。（一社）福祉防災コミュニティ協会代表理事。著書『図解よくわかる自治体の地域防災・危機管理のしくみ』『ひな型でつくる福祉防災計画』（編著）など
講義の内容	地域の防災力は備蓄や訓練よりも、政策と自治体職員の本気度によって決まる。重要な防災政策と推進方策を具体的な事例とともに講義する。主な項目は次のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> ・脆弱化した社会と正常化の偏見 ・日本の災害史と今後の災害予測 ・近年の災害とその特徴 ・耐震化の重要性と新たな推進政策 ・高齢者、障がい者等の被害と福祉防災 ・地区防災計画の取組事例 ・コミュニティの重要性と個人が幸福になるために
事前課題・持ち物など	令和4年版防災白書令和4年版防災白書(6月発行)、特に特集第2章に目を通しておいてください。
教科書	
参考図書	最新の知見は「都市のリスクマネジメント」市政連載、「魅力増進型防災」ガバナンス連載、「福祉と防災」リスク対策.com連載で紹介。令和3年防災白書

5-23 教育行政の課題	
担当講師	佐々木 幸寿（東京学芸大学 理事・副学長）
プロフィール	東北大学大学院教育学研究科博士課程修了。博士（教育学） 岩手県教育委員会指導主事・管理主事，信州大学准教授，現在は、東京学芸大学理事・副学長、教職大学院長、先端教育人材育成推進機構長。 専攻：教育行政学，学校法
講義の内容	第1時においては、教育行政の特質、教育法の体系と主な法令の概要を理解することを重点としながら、現代において焦点となっている新しい法改正の状況について理解を深める。 第2時においては、教育行政が抱える主な現代的課題（教育委員会制度、県費負担教職員制度、教師の働き方改革、いじめ防止対策推進法）について理解を深める。
事前課題・持ち物など	特になし
教科書	『学校法』第二版，学文社，2021年
参考図書	特になし

5-24 スポーツの活用による地域振興	
担当講師	山下 真輝（株式会社 JTB 総合研究所 交流戦略部 部長）
プロフィール	内閣官房地域活性化伝道師として全国各地の観光振興のアドバイスをっており、各種セミナーやフォーラムにおける講演やモデレーターとしての出演依頼も多数あり、観光関連研修での講師としても活動を行っている。2011年に観光庁が策定したスポーツツーリズム推進基本方や2012年の日本スポーツツーリズム推進機構設立に中心的に関わり、全国各地でスポーツツーリズムの推進に取り組んでいる。現在同機構のセミナー委員としても活動中。また欧米諸国を中心に成長している日本の自然体験など様々なアクティビティや文化体験を提供するアドベンチャーツーリズムを日本に定着されるべく、2019年に（一社）日本アドベンチャーツーリズム協議会を設立し、業務執行理事を務めている。
講義の内容	スポーツによる地域活性化・まちづくりの推進として、全国各地にてスポーツと旅行・観光を掛け合わせたスポーツツーリズムを通じた交流人口拡大の取り組みが進んでいます。スポーツ庁では、オリンピック・パラリンピック開催のレガシーとして、「スポーツ・健康まちづくり」優良自治体表彰制度が創設されており、多くの自治体がスポーツツーリズムの推進で表彰されています。地域が抱える課題の解決にむけた観光の果たす役割や全国各地の事例をもとにスポーツツーリズムによる地域振興について考察していきます。また早速アフターコロナの旅行スタイルとして注目される自然環境を活かしたアウトドアスポーツの可能性についても考察していきます。
事前課題・持ち物など	特になし
教科書	特になし
参考図書	特になし

6. 演習

6-2 データ分析演習	
担当講師	長島 剛（多摩大学 経営情報学部 教授）
プロフィール	法政大学大学院社会学研究科修了。多摩中央信用金庫（現多摩信用金庫）入庫。価値創造事業部部長、地域連携支援部長を歴任。2019年より現職（多摩信用金庫より出向）。専門は地域連携、地域金融論。
講義の内容	産業振興の範囲は企業誘致、制度融資、地場産業支援、産学連携、創業支援、事業承継、企業連携、海外展開、商店街振興、農業支援など幅広い。また、基礎自治体が行っている政策の主体は、中小企業政策であり、まちづくり全般である場合も多い。今回は、RESAS や帝国データバンクなどの民間調査会社のデータを活用して、現場ですぐに活用できるデータ分析、活用方法を解説する。
事前課題・持ち物など	事前に RESAS を触っておくことが望ましい。
教科書	講義レジュメ
参考図書	

6-5 法令の成り立ち	
担当講師	佐々木 克之（ささき かつゆき）（内閣法制局第三部参事官）
プロフィール	平成10年自治省入省。鹿児島県総務部財政課長、総務省選挙部選挙課理事官、山口県総務部長、総務省選挙部支出情報開示室長等を経て現職。
講義の内容	地方公共団体における条例の立案及び法令の解釈に資するよう、法制執務に係る基本的事項や国における法令審査の例等について講義する
事前課題・持ち物など	なし
教科書	配布するレジュメ
参考図書	ない

6-6 講義話法(6/19)	
担当講師	福田 賢司 ((株)話し方研究所 代表取締役)
プロフィール	東京都出身。1999年講師資格を取得後、2014年より現職。
講義の内容	<p>庁内講師としての役割を遂行する上で、講義能力の向上はきわめて重要な課題である。本演習において「講義話法」を学び、話し方の基礎や留意点、心がまえなど、人前での話し方の基本を学び、その要領を修得することをねらいとする。2部課程での研修修了後、各自庁内で講義を担当するときに備える。</p> <p>特に政策の発表、住民説明などを重視し、「プレゼンテーション」と「コミュニケーション」の関係を中心に、具体的な事例をまじえて以下の項目をもとに講義を行なう。</p>
事前課題・持ち物など	
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・6/19(月)用講義レジュメとシート①・② ・きちんと伝わる『わかりやすい説明』 福田健著 (総合科学出版) ・テキスト「スピーチコース」(話し方研究所)
参考図書	

6-6 スピーチ練習(7/14)	
担当講師	(株)話し方研究所講師 5名
プロフィール	話し方研究所講師資格を取得後、現在にいたる
講義の内容	<p>庁内講師としての役割を遂行する上で、講義能力の向上はきわめて重要な課題である。本演習では、実際に簡単なスピーチを体験することで、人前での話し方の基本を学び、その要領を修得することをねらいとし、1部課程での研修修了後、各自庁内で講義を担当するときに備える。</p> <p>人前での話す力の土台になるのが、「スピーチスキル」である。演習を通してスピーチ・スキル向上をめざす。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入講義「スピーチの基本」—大勢の前で話す際の基本形+準備について 2. 実習①「3分間スピーチ」 <ul style="list-style-type: none"> 【テーマ：新規採用職員へ「公務員倫理の重要性」を話す】 —全体の前で一人ずつ発表—発表3分→相互コメント1分→講師コメント3分 ※解説「表現の3原則」—わかりやすく、簡潔に、印象深く 3. 講義「組み替えの意義とポイント」 4. 実習②「組み替えスピーチ(2分間)」 <ul style="list-style-type: none"> —全体の前で一人ずつ発表—発表2分→相互コメント1分→講師コメント2分 ※実習②は、1班10名以上の場合は、レビュースピーチ(私の課題) ※机の配置は教室形式でお願いします。
事前課題・持ち物など	研修生は演習の当日までに、下記のテーマで、3分間スピーチの内容を考えておいてください。テーマ：新規採用職員へ「公務員倫理の重要性」を話す(3分間)
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・きちんと伝わる『わかりやすい説明』 福田健著 (総合科学出版) ・テキスト「スピーチコース」(話し方研究所)
参考図書	

第1部課程第140期 Syllabus

作成：自治大学校教務部

〒190-8581 東京都立川市緑町10番地の1

TEL (042) 540-4502 (教務部直通)

FAX (042) 540-4505 (教務部)
